放課後子ども教室

第２回放課後子どもプラン研修会【郡山市】

県全体で 195 名の参加がありました。
講演・演習の内容をまとめましたので
参考にしてください。

日時　平成２４年１２月１日（土）
場所　郡山労働福祉会館
日程　１０：２０～１０：３０　開会
　　１０：３０～１２：００　講演「学校と地域のかろやかな融合」
　　学校と地域の融合教育研修会長 宮崎　稔 氏
　　１３：００～１４：００　講義・演習「気になる子どもの理解と支援」
　　福島県養護教育センター指導主事 菅野和彦 氏
　　１４：００～１５：００　フリートーク
　　１５：００～１５：１５　閉会

講演『学校と地域のかろやかな融合』　学校と地域の融合教育研修会長　宮崎　稔　氏

〇題名の「かろやかな」とは無理しないで長続きすること、融合とはどちらも得することである。
〇校長として「地域ぐるみで子どもを育てる」ということを学校経営の中核にして取組み、地域の人と一緒にやるようになって、地域の人々の思いや気持ちが分かってきた。
〇家族が被災し、被災地支援やフォーラムで知ったこと
・学校支援・地域支援・放課後支援の事業の有無で、危機対応力に差が出た。
・心のケアは長期的にやる必要がある。
・中高生を意図的に関わらせたい。
〇学社融合の「７者のメリット」　※　習志野市秋津小学校の例
・小学生は、楽しい学校生活により不登校がゼロになった。
・中高生は、母校が居場所になって、大家族的なコミュニティになった。
・若い親は、子育ての悩み相談を学校内でできるようになった。
・現役世代の父親は、仕事上の付き合いとは別の仲間ができ、地域での生活に潤いができた。
・高齢者は、子どもに期待されて役立ち感を持ちながらの老後の生活になった。
・教師は、地域ボランティアとの協働で楽しい授業・分かりやすい授業が実践できるようになった。
・行政は、予算がなくてもボランティアによる学校内の修理や建築ができたので助かった。

〇融合の定義は、企画段階から双方で検討して実践することで、一過性ではなく、継続的なことが多い。メリットも責任も、企画者・協力者の双方にある。
〇学校と地域の関係がよくなり、双方にメリットが出てくると、様々な形で、学社融合が「かろやかに」進行する。
〇子どもの安全に関する参加は、まちづくりへの意識を形成するのに取りかかりやすい。
〇「できる人が」「できるときに」「無理なく」「楽しく」が連続していける学社融合の秘訣である。
〇放課後子ども教室での大人と子どもの活動は、世代間交流によるまちづくりそのものである。
〇共通理解の場や子どもたち同士で話し合うことも大切である。
〇指導者の勧誘は、発表会でＰＲしたり、子どもたちの手で招待状を送ったりすることで効果が上がる。
〇放課後子ども教室の大きな役割は、子どもにとって自分の家族以外に信頼できる大人が地域にいることである。

講義・演習『気になる子どもの理解と支援』　福島県養護教育センター　指導主事　菅野和彦　氏

〇人にはそれぞれ特性があるように、発達障がいがある。
〇発達障がいとは、子どもの時期に起こる障がいで、基本的には脳の問題である。
〇発達障がいは、複雑に絡み合っていることが多く、一人一人全く違う。対応も違ってくる。
〇場の状況が読めない子が多い、言葉の後ろに隠されているものを理解しにくい、目に見えない物を理解しにくい、敏感なものが多いなど、理解してやることで次の支援策が生まれる。

（演習）疑似体験　・子どもの困りを体験してみよう。（ハングル文字を写してみる。）
　　・子どもの気持ちになってみよう。（言葉で言う図を描いてみる。）

〇本人が抱える「特性」に合わせて、対応の仕方を考えることが大事である。誤った対応を続けると、「二次的な問題」が生じてしまう。障がいの特性に合わせて対応することで、本人が困っている状況を軽減することができる。
〇成功の積み重ねができる環境を作ることが大切である。「〇〇はいけません」という否定的な言葉ではなく、「〇〇します」と肯定的な言葉で伝え、できたことはしっかりほめることが大切である。
〇子どもたちの育ちを支える人と人とのネットワークが重要になってくる。

【フリートークでの参加者の声】
〇気になる子どもへの対応の仕方を学んで、とても参考になった。ぜひ活かしていきたい。
〇このような研修の場をこれからも企画して欲しい。

※　２つの講話・講義から、学校と地域の在り方、子どもたちへの適切な対応の仕方について理解を深めることができました。